

# 第11回 福井県科学学術大賞特別賞 受賞

海洋生物資源学部 宮台俊明教授は、「DNA鑑別手法を用いたトラフグの雌雄判別法の開発」の業績が評価され、第11回 福井県科学学術大賞特別賞を受賞しました。

宮台教授はトラフグの稚魚のゲノム解析をし、膨大なゲノムデータから雄と雌では必ず違う塩基があること(一塩基多型)に気付き、この一塩基多型が雌雄を決定している例は全生物で初めての発見となりました。これは多数の個体を一気に雌雄判別することを容易にしました。

嶺南地方ではトラフグの養殖が盛んですが、この研究は、中国産の廉価な養殖トラフグの輸入に対し福井県のトラフグ養殖を維持・発展させようと、福井県栽培漁業センターの要望から生まれた、産官学連携の非常に良い例となっています。雄だけを生む親魚の作出や、短期間で白子を作る系統の作出など、より実用化に向けた開発が期待されます。



## 宮台教授 受賞のコメント



受賞の対象となった課題は、DNA鑑別によるトラフグの雌雄判別です。2007年度から農林水産技術会議の予算を得て、福井県、東大の協力を仰ぎ、当初は計画になかった雌雄決定遺伝子の同定という思いがけない成果を得ることができました。大晦日も元日もなく、ひたすら塩基配列の決定に没頭していた日々でした。このような名誉ある賞をいただくことができたのは、研究に携わってきた皆様の方々の努力の賜物であり、感謝の気持ちでいっぱいです。今後はこの成果が実用化され、水産業の一助となることを願ってさらに研究をすすめたいと思っています。